



あなた自身がデザイン

九大で学び 九大から飛躍するための 英語学習案内

Q-LEAP
Kyushu University
Learning English for Academic Purposes

平成27年度
九州大学

グローバル・コミュニケーションのツール:英語



平成27年4月
九州大学大学院言語文化研究院長
太田 一昭

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。新しく始まる大学生活に夢を膨らませ、将来の目標へ向けての決意を固めていることと思います。その夢と目標に向かって、意気高く出発していただきたいと願っています。

中学・高校の6年間、皆さんは英語を学んできたことと思います。大学でも、英語は重要な科目の一つです。しかし、大学の英語は、「学び方」という点において、高校までのそれと異なります。

高校まで、皆さんは、教科書に即して、先生方の授業を聴いて覚え、試験にはその覚えたことを答案用紙に解答していたと思います。そこでは、「正答」はほとんどが「一つ」であり、それが書けなければ理解していないと判断されました。いかにたくさんのかを「覚え」、いかに知識を増やし、いかにそれを答案用紙に反映させることができるかが問われていたといってもいいでしょう。高校までの学びでは、冷蔵庫の中に既に用意された食べ物を食べ、吸収し、体内に蓄積していくことが求められていたと言い換えることもできると思います。

しかし、大学では、冷蔵庫の中に用意された食べ物の中から、自分が作りたい料理に合う素材を「選択」し、調理方法を「自分で考える」ことが求められます。そして、どんな料理を作るのか、そこで求められる解答は一つとは限りません。解答は異なることがあり、正解は複数存在することになります。つまり、大学での学びでは、正解に至るまでの複数の方法を考える「過程」が重要になります。そして、複数の選択肢の中から選択し、結果を発信していく、という「アクティブ(能動的)」な姿勢が求められるのです。

例えば、リーディングやリスニングでは、高校までのように受信した内容を「理解」するだけでは十分ではありません。その内容について「自分はどうか考えるのか」を発言することが求められます。ライティングでは、日本語を英語に訳すという「英作文」ではなく、自分で情報を収集し、調べた内容を「論述」することが求められます。そして、その内容を「プレゼンテーション」の形式で口頭で発表することが求められます。このように、大学での英語授業は、情報を与えられるのを待ち、与えられた選択肢から正解を見つけ出そうという学び方では対処することができません。自ら情報を収集し、自ら考え、自ら発信していくことが求められるのです。そして、こうした発信型の英語運用能力こそが、急速にグローバル化が進む国際社会において必要な「グローバル・コミュニケーションのツールとしての英語」なのです。

九州大学・学術英語カリキュラム「Q-LEAP」では、皆さんの将来の学術研究活動に応用できる「グローバル・コミュニケーションのツールとしての英語運用能力」を養成することを主要な目的に掲げています。皆さんがこの目標を達成し、将来、国際舞台の第一線で活躍できるよう、全ての専門分野に共通する「汎用学術英語(English for General Academic Purposes)」と、ある特定の専門分野に特化した「特定学術英語(English for Specific Academic Purposes)」を二本柱とし、高度な学術英語運用能力に必要な技能を、一步一步着実に身につけていける体系的なカリキュラムを提供しています。

また、Q-LEAPは、みなさんが自らの興味・関心に応じて独自の学習プログラムを作り上げていけるよう、多様な科目群を提供するとともに、「セルフ・アクセス・ラーニングセンター(Self-Access Learning Center, 以下SALC)」をキャンパス内に設置し、専門スタッフや大学院生チューターから英語に関する学習支援が受けられるしくみを整えています。

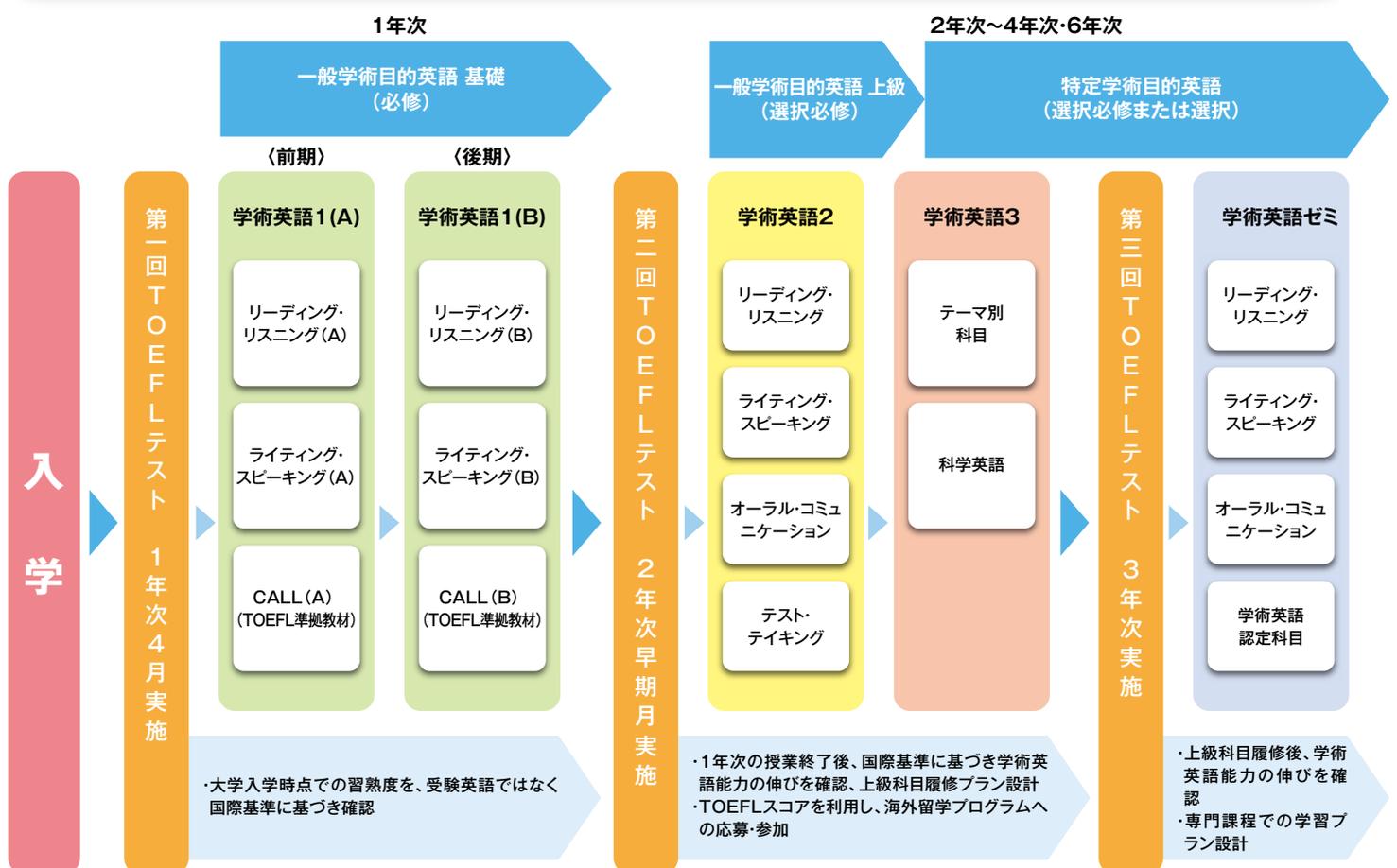
この『九大で学び、九大から飛躍するための英語学習案内』は、Q-LEAP開発に携わった九州大学言語文化研究院の英語担当教員によって作成されました。このガイドブックでは、Q-LEAPの様々な特色について順に紹介し、皆さん一人一人の目的に合う履修方法を提案しています。Q-LEAPが提供する教育プログラムを最大限に活用し、将来の自分への投資として、多いに英語力を養っていきましょう。

九州大学・学術英語カリキュラム Q-LEAP 全体像

九州大学・学術英語カリキュラム「Q-LEAP」では、皆さんの将来の学術研究活動に応用できる「グローバル・コミュニケーションのツールとしての英語運用能力」を養成することを主要な目的に掲げています。皆さんがこの目標を達成し、将来、国際舞台の第一線で活躍できるよう、全ての専門分野に共通する「一般学術目的の英語 (English for General Academic Purposes)」と、ある特定の専門分野に特化した「特定学術目的の英語 (English for Specific Academic Purposes)」を二本柱とし、高度な学術英語運用能力に必要な技能を、一步一步着実に身につけていける体系的なカリキュラムを提供しています。

新・学術英語カリキュラム

“Q-LEAP (Kyushu University - Learning English for Academic Purposes)”



Self-Access Learning Center (個人のニーズに対応した自律学習支援)

英語学習相談

TOEFL、TOEIC、IELTS等国際検定試験支援

リーディングルーム(英字新聞、雑誌)

留学支援

留学生との交流スペース

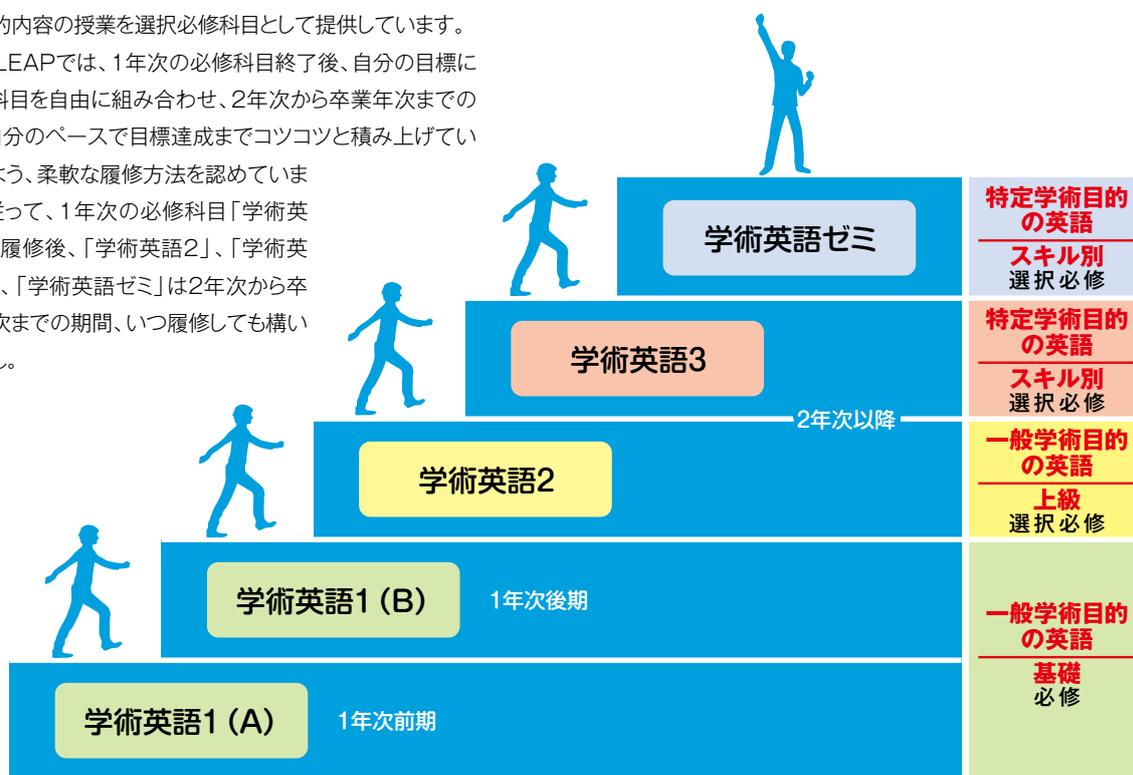
英会話セッション

Q-LEAPの5つの特色

① 「一般学術目的の英語」から「特定学術目的の英語」へのステップアップ方式

Q-LEAPでは、1年次に、全ての専門分野に共通する「一般学術目的の英語(基礎)」の授業を必修科目として提供しています。次に、2年次から卒業年次にかけて、「一般学術目的の英語(上級)」から「特定学術目的の英語(テーマ別、スキル別)」まで、皆さんの興味・関心、専門性、英語力に応じた段階的内容の授業を選択必修科目として提供しています。

Q-LEAPでは、1年次の必修科目終了後、自分の目標に合う科目を自由に組み合わせ、2年次から卒業年次までの間、自分のペースで目標達成までコツコツと積み上げていけるよう、柔軟な履修方法を認めています。従って、1年次の必修科目「学術英語1」履修後、「学術英語2」、「学術英語3」、「学術英語ゼミ」は2年次から卒業年次までの期間、いつ履修しても構いません。



② 四技能統合型の多様なコース

Q-LEAPでは、リーディング、リスニング、ライティング、スピーキングの四技能の「統合型授業」を提供しています。「資料を読み、概要を英語で要約する」、「レポートの内容を口頭発表する」、「講義の内容に基づいてディスカッションをする」等、実際の学術活動場面を想定した「実践的コミュニケーション能力」を身につけることを目指します。



③ 世界に通用する英語テスト「TOEFL- ITP」に基づく英語力の変化のチェック

Q-LEAPでは、皆さんの英語力の長期的な変化をチェックするためのテストとして、世界に通用する国際的尺度の一つである「TOEFL-ITP」を導入しています。TOEFL-ITPを大学入学直後と2年次、3年次の3回実施することで、皆さんが**自分の英語力の長期的な変化を、世界各国の英語学習者との比較を通して自己確認**できるようにしています。また、国際基準であるTOEFLのスコアを持つことで、皆さんが**海外留学プログラムや学内外の奨学金、海外インターンシッププログラムに参加**できるように支援します。

④ Eラーニングによる学習時間の確保

Computer-Assisted Language Learning (CALL)教材を用いた自主学习により、質を伴った学習時間の実質的な増加・確保を実現、**語彙力、文法力、読解力、聴解力の補強・強化**を目指します。CALL教材はTOEFL-ITPに準拠した内容になっており、入学時と2年次のTOEFL-ITPのスコア2回分の平均点がCALL授業の成績認定として利用されます。

⑤ 教室外での英語学習コミュニティ:Self-Access Learning Center (SALC)

Q-LEAPでは、皆さん**一人一人の英語力や英語学習のニーズに応じた英語学習支援**を提供するため、キャンパス内に「Self-Access Learning Center (SALC) (センター1号館1階)」を設置しています。

国際教育研究拠点である九州大学には、多様な学術分野(文学、教育、法学、経済、医学、薬学、工学、理学、農学)を専攻する学生が学んでおり、英語学習に関するニーズも「専門分野の英語を学びたい」、「留学に備えてTOEFLの対策をしたい」、「就職に備えてTOEICのスコアを伸ばしたい」、「英語による会話を鍛えたい」というように、多様化、細分化しています。こうした幅広いニーズに応えるために、SALCでは、専門スタッフや大学院生チューターによる英語学習相談や留学相談等、**個人のニーズに応じた学習支援**を提供しています。また、TOEFL、TOEIC、IELTS等の問題集、英語学習のための参考書、英字新聞、雑誌等を閲覧することもできます。

さらに、SALCは、**留学生と日本人学生が交流する「コモン・エリア」**として、学内での異文化交流、ならびに九州大学伊都キャンパスの国際化を目指しています。外国に行かずとも、伊都キャンパスのSALCに行けば、異なる文化的背景を持つ留学生と交流し、日本人同士の交流では得られない国際的感覚を磨くことができるはず。それは、自国の文化や価値観、あるいは自分自身をも客観的に見直す貴重な機会となることでしょう。

学ぶ場所は「教室の中」だけではありません。教室の外にも学びの場が沢山あり、そこにはいろいろな「先生」がいます。その「先生」とは、先輩であったり、仲間であったり、留学生であったり、様々です。SALCは、そんな**「教室外の」独自の学習コミュニティ**であり、教室では得られない学びを経験できる場所です。

SALCを積極的に利用して、九州大学在学中に英語力をグングン伸ばしていきましょう！そして、教室の中では得られない「教室外の」学習コミュニティで、留学生も含めた「仲間」とともに学び、視野を広げ、**「九大から飛躍」**していきましょう！



SALCでの支援内容(平成27年度予定)

- (1) Language Cafe (英会話)
- (2) TOEFL、TOEIC、IELTSなどの教材閲覧
- (3) 英字新聞や雑誌の閲覧
- (4) 留学生との交流機会の提供
- (5) ブラウンバッグ・レクチャー

科目概要

科目名		単位	授 業 概 要	備 考 (履修上の注意)
学術英語 1	学術英語1・リーディング・リスニングA	1	英語による受信能力を高めるためのリーディング、及びリスニング活動を中心とする科目(基礎)である。英語文献の理解、英語による講義の理解、文献や講義で扱われるトピックの分析、ノートを取り方等、リーディングとリスニング活動を組み合わせ、英語受信能力の基礎を育成する。	全学部において必修
	学術英語1・リーディング・リスニングB	1	英語による受信能力を高めるためのリーディング、及びリスニング活動を中心とする科目(上級)である。英語文献や講義の内容を理解するだけでなく、その内容を正しく読み取るための思考方法や考察力を養成する。情報を受信した後、その情報について学生同士で検証・討論するなど、リーディングとリスニングを思考・分析活動と組み合わせ、より高度な英語受信能力を育成する。	
	学術英語1・ライティング・スピーキングA	1	英語による発信能力を高めるためのライティング、及びスピーキング活動を中心とする科目(基礎)である。パラグラフやエッセイの構造、主張とそれを支える根拠の提示の仕方を学習し、読み手に伝わる論理的な英文作成方法の基礎を養成する。学生同士で書いたものを読み合い、批評、提案を行ったり、書いたものを口頭発表するなど、ライティングとスピーキングの活動を組み合わせ、英語発信能力の基礎を育成する。	
	学術英語1・ライティング・スピーキングB	1	英語による発信能力を高めるためのライティング、及びスピーキング活動を中心とする科目(上級)である。パラグラフやエッセイについての基礎的理解を実践場面に活かすべく、特定の目的や状況、読み手に応じた英文作成方法を学習する。学生同士で書いたものを読み合い、批評、提案を行ったり、書いたものを口頭発表するなど、ライティングとスピーキングの活動を組み合わせ、より高度な英語発信能力の基礎を育成する。	
	学術英語1・再履修	1	学術英語の基礎を復習するための科目である。「学術英語1・リーディング・リスニングA、B」および「学術英語1・ライティング・スピーキングA、B」の単位取得ができなかった学生は、この科目によって再履修を行う。重複履修可。	学術英語1のリーディング・リスニングA、B、ライティング・スピーキングA、Bの再履修科目
	学術英語1・CALL-A	1	コンピュータ・ネットワークを用いて、リーディング、リスニング、文法等の演習に取り組む自律学習型科目(基礎)である。1年前期半年を通じて学習を継続し、英語による「受信・発信能力」の基礎を強化する。学習上必要な連絡や定期試験は「学術英語1・リーディング・リスニングA」のクラス単位で行う。単位認定は1,2年開始時に行われる英語力診断テストの成績を加味して行われる。	1年次にWeb教材で自学を中心とする学習を行い、2年前期に試験実施。 1年前期開講の「学術英語1・リーディング・リスニングA」において配布する「CALL受講説明書」に基づいて学習を行います。単位の認定は、Web学習の状況、定期試験、1,2年次開始時に実施する英語力診断テスト(TOEFL-ITP)により、2年前期に行います。
	学術英語1・CALL-B	1	コンピュータ・ネットワークを用いて、リーディング、リスニング、文法等の演習に取り組む自律学習型科目(上級)である。1年後期半年を通じて学習を継続し、英語による「受信・発信能力」の基礎を強化する。学習上必要な連絡や定期試験は「学術英語1・リーディング・リスニングB」のクラス単位で行う。単位認定は1,2年開始時に行われる英語力診断テストの成績を加味して行われる。	
学術英語 2	学術英語2・リーディング・リスニング	1	将来の学術研究の実施につながる上級学術英語技能を、リーディング、及びリスニング活動を通して養成する科目である。「学術英語1」で習得した英語受信能力の基礎を実践場に活かすべく、学術論文や講義、新聞記事、Web上の動画や資料等、様々なジャンルを用いて、より実践的な場面で情報収集・分析・考察を行い、専門学術英語への橋渡しとなる上級英語受信能力を養成する。重複履修可。	
	学術英語2・ライティング・スピーキング	1	将来の学術研究の実施につながる上級学術英語技能を、ライティング、及びスピーキング活動を通して養成する科目である。「学術英語1」で習得した英文作成方法の基礎をさらに高度な学術的文章作成に活かすべく、議論のあるテーマの分析や仮説の検証を通して、アナリティカルペーパー やリサーチペーパー等のより科学的・客観的な文章作成方法を習得する。学生同士で書いたものを読み合い、批評、提案を行ったり、書いたものを口頭発表するなど、ライティングとスピーキングの活動を組み合わせ、専門学術英語への橋渡しとなる上級英語発信能力を養成する。重複履修可。	
	学術英語2・オーラル・コミュニケーション	1	将来の学術英語研究の実施につながる上級学術英語技能を、オーラル・コミュニケーション活動を通して養成する科目である。プレゼンテーション、ディベート、ディスカッション、スピーチ等、様々なジャンルの活動に取り組みながら、高度な表現能力や意思伝達手法、論理的説得術を養成する。重複履修可。	
	学術英語2・テストテイキング	1	TOEFLやIELTSなど、海外の大学や大学院へ留学する際に必要となるテストに対応した英語能力を養成する科目である。語彙、文法、リーディング、リスニング、ライティング等の活動を通して、学術英語能力の総合的な強化を目指す。留学を希望しない学生も履修可能。重複履修可。	

科目名		単位	授 業 概 要	備 考 (履修上の注意)
学術英語3	学術英語3・個別テーマ	1	履修者の専門分野と関連性が高い内容を取り扱う個別テーマ型科目である。特定の分野に関する文献を読んだり講義を聴き、専門的な学術的教養を深めるとともに、その内容について討論・論述を行うなど、受信・発信を行うための上級学術英語能力を総合的に養成する。副題が異なれば重複履修可。	開講学部・学科の学術分野に関わる英語の授業を行いますので、該当する学部・学科の学生は、指定された科目を履修してください。
	学術英語3・科学英語	1	自然科学系の内容を取り扱う専門科目である。特定の分野に関する文献を読んだり講義を聴き、専門的な学術的教養を深めるとともに、論文等の執筆、学会発表や討論等に必要表現方法を身につけ、より専門性を意識した上級学術英語能力を育成する。副題が異なれば重複履修可。	
学術英語ゼミ	学術英語ゼミ・リーディング・リスニング	2	将来の学術研究の実施につながる上級学術英語技能を、リーディング、及びリスニング活動を通して強化するゼミ形式の科目である。具体的なテーマについて自身で問いを立て、その問いに答えるために、様々な文献をリサーチし、問いに適切に答えるための情報収集・分析・評価・考察方法を習得する。学生グループによる自主的学習などを含め、教室内外で90時間の学習時間を必要とする。副題が異なれば重複履修可。	選択科目のため、修得すべき単位数は定められていませんが、単位を修得した場合は、第1・第2外国語の英語の単位とすることができます。
	学術英語ゼミ・ライティング・スピーキング	2	将来の学術研究の実施につながる上級学術英語技能を、ライティング、及びスピーキング活動を通して強化するゼミ形式の科目である。具体的なテーマについて調査・分析し、その結果をリサーチペーパー、アナリティカルペーパー、ブックレビュー、新聞記事等、様々なジャンルの規範に応じて執筆・発表する訓練を行う。学生グループによる自主的学習などを含め、教室内外で90時間の学習時間を必要とする。副題が異なれば重複履修可。	
	学術英語ゼミ・オーラル・コミュニケーション	2	将来の学術研究の実施につながる上級学術英語技能を、オーラル・コミュニケーション活動を通して強化するゼミ形式の科目である。具体的なテーマについて調査・分析し、その結果をプレゼンテーション、ディベート、ディスカッション、スピーチ等、様々なジャンルの規範に応じて発信する訓練を行なう。学生グループによる自主的学習などを含め、教室内外で90時間の学習時間を必要とする。副題が異なれば重複履修可。	
	学術英語認定科目	2	学術英語に関連する様々な課外活動に参加することにより単位が認定される科目である。ケンブリッジ大学英語・学術研修、カリフォルニア語学研修、ディベート集中講義など、Q-LEAPの科目としてふさわしいと認められた活動について単位が認定される。副題が異なれば重複履修可。	

【英語の履修にあたって】

- 英語科目を履修する学生は、1年前期(4月)と2年前期(4月)に実施される英語力診断テスト(平成27年は、TOEFL-ITP)を必ず受験してください。
- 時間割表または受講者名簿の掲示によってクラスの指定が行われている科目は、指定クラスで受講してください。
- 学生がクラスを選択できる場合は、別に要領を掲示しますので注意してください。ただし、1年次については、受講クラスは全て指定します。

①科目別注意事項

- 「学術英語1・リーディング・リスニングA,B」及び「学術英語1・ライティング・スピーキングA,B」は、全学部学生において必修です。
- 「学術英語1・再履修」は、「学術英語1・リーディング・リスニングA,B」及び「学術英語1・ライティング・スピーキングA,B」の単位を修得できなかった場合、再履修するための科目です。
- 「学術英語1・CALL-A,B」は、特定の曜日時限に授業を行わず、各学期にWeb教材での自主学習が主となります。1年前期開講の「学術英語1・リーディング・リスニングA」において配布する「CALL受講説明書」に基づいて学習を行います。
単位の認定は、Web学習の状況、定期試験、1,2年次開始時に実施する英語力診断テスト(TOEFL-ITP)により、2年前期に行います。
- 「学術英語3」は、開講学部・学科の専門分野に関わる英語の授業を行いますので、該当する学部・学科の学生は、指定された科目を履修してください。
- 「学術英語ゼミ」は選択科目のため、修得すべき単位数は定められていませんが、単位を修得した場合は、第1・第2外国語の2年次以降に履修すべき英語の単位とすることができます。
- 「学術英語認定科目」の履修登録方法は別に定めます。

上記d~fの科目には、それぞれ副題が付けられています。副題が異なる場合は同じ科目を重複して履修することができます。副題は、Webシラバスで確認してください。

②再履修について

- 「学術英語1・リーディング・リスニングA,B」及び「学術英語1・ライティング・スピーキングA,B」の単位を当該学期において修得できなかった場合は、1年後期以降に、原則として「学術英語1・再履修」で再履修してください。「学術英語1・再履修」の受講にあたっては、学期開始前に申込みが必要です。受講申込方法は、学期開始前に掲示で案内します。
- 「学術英語1・CALL-A,B」が不合格となった場合は、次学期以降に同一科目を受講申込みして再履修してください。受講申込み方法は、学期開始前に掲示で案内します。
- 「学術英語2」及び「学術英語3」の科目の単位を当該学期において修得できなかった場合は、次学期以降に「学術英語2」及び「学術英語3」の科目群から履修して不足単位を補充してください。

学習計画をデザインしよう

離陸した飛行機には、必ず着陸地点があります。飛び立った飛行機は、目的地を目指して、航路を選びながら空の旅を続けます。目的地がなければ、飛行機はどこに向かえばいいかわからず、空の上でさまようだけです。勉強も同じことが言えます。

みなさんは「今より英語ができるようになりたい」と思っているはずです。でも、目的地を明確にしなければ、どこにも着地できません。向かう方向を定めなければ、迷うだけです。中学・高校で身につけた英語力の土台、そしてQ-LEAPで身につけることになる高度な学術英語の基盤があれば、みなさんはどこにでも飛び立つことができます。そして、プランを立て、目的地に向かって根気よく進み続ければ、必ずそこに到達できます。

だからこそ、みなさん一人一人がまず「目的地」を明確にしてください。そして、そこに到達するための独自の「学習計画」をデザインしてみてください。



1 スタート地点の英語力をチェック! 現時点でのあなたの英語力は?

●TOEFL-ITP ()点

●TOEIC ()点

●英検 ()級

●その他

2

目標到達地点を設定! 大学卒業時にどこに到達していただきたいですか? 身につけたい英語力の目標は?



●TOEFL-ITP()点、TOEIC()点、英検()級 を取得したい。

「こうなりたい!」という項目にチェックを入れてみよう! 九大を卒業するまでに、私は…

- 英語の新聞や雑誌の記事が読めるようになりたい。
- 英語のインターネットの記事を読んで最新の情報を収集できるようになりたい。
- 自分の専門分野の学術雑誌を読めるようになりたい。
- 英語のニュース番組が聴き取れるようになりたい。
- 英語の講義やプレゼンテーションが聴き取れるようになりたい。
- 英語で論文が書けるようになりたい。
- 英語でEメールが書けるようになりたい。
- Facebookの日記が英語で書けるようになりたい。
- Twitterで英語でつぶやけるようになりたい。
- 英語で自分の意見が言えるようになりたい。
- 英語でディベートができるようになりたい。
- 英語で自分の研究成果をパワーポイントを用いて発表できるようになりたい。
- 英語で先生やクラスメイトに質問できるようになりたい。
- 映画を字幕なしで見られるようになりたい。
- 英語で書かれた小説を読めるようになりたい。
- 短期留学プログラムに参加して、他国の学生と交流したい。
- 学部生の間に海外に長期留学したい。
- 海外の大学院に進学したい。
- 就職で役立つビジネス英語を身につけたい。
- 日本語を母語としない留学生と友達になりたい。
- 海外の人に英語で日本文化について説明できるようになりたい。
- 海外の人に英語で日本語を教えられるようになりたい。

その他



3

目的地までの航路をデザイン!

上で設定した目標地点に到達するために、何をすればよいだろう?
どんな科目を履修し、どんな勉強をすればよいだろう?
学習プランを書いてみよう。

1年次	【履修科目】(必修) 学術英語1 リーディング・リスニング(A)(B) 学術英語1 ライティング・スピーキング(A)(B) 学術英語1 CALL(A)(B)
	【自主的に取り組むこと】
2年次以降	【履修科目】
	【自主的に取り組むこと】

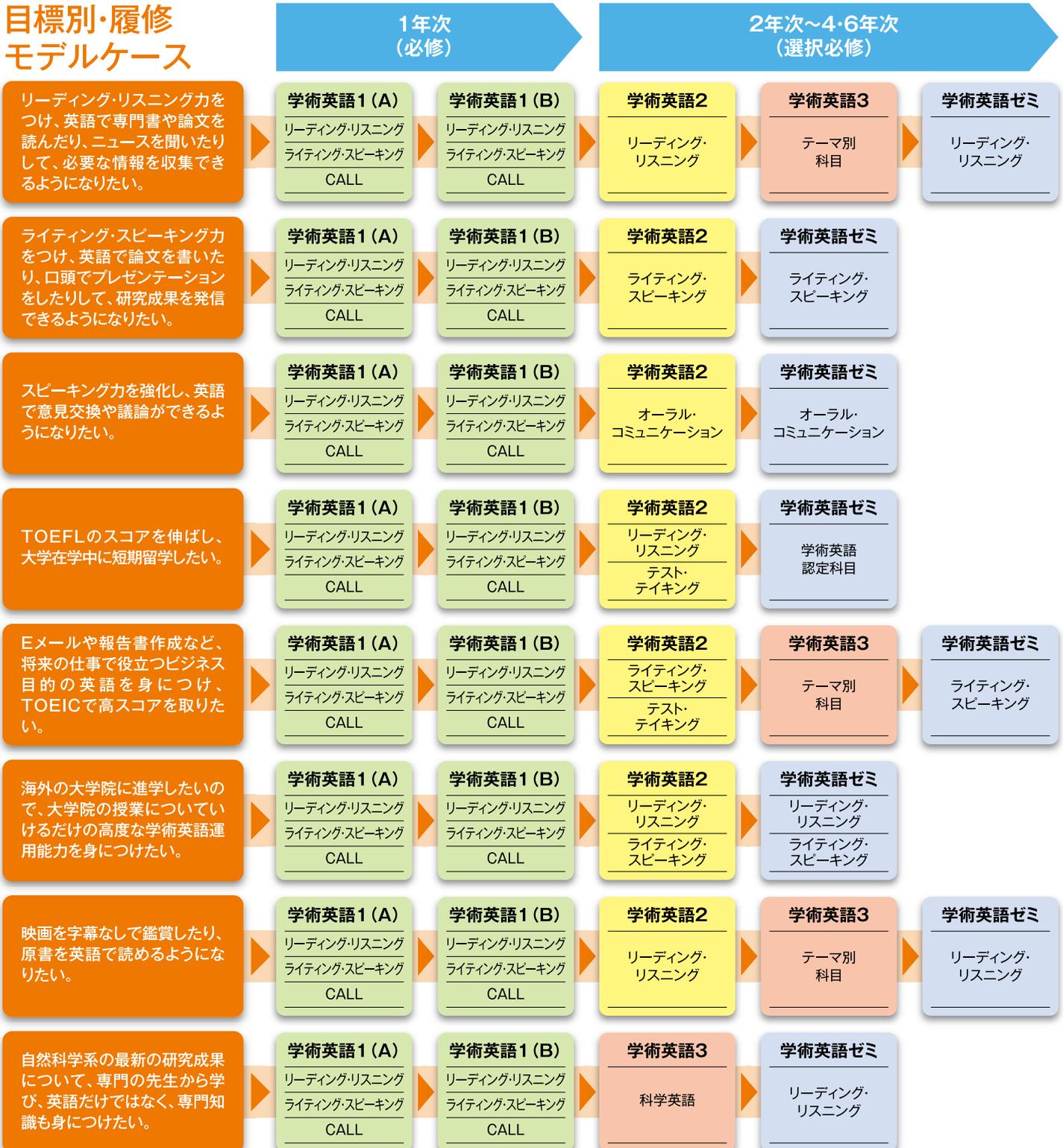
「自主的に取り組む勉強方法」や「2年次以降の科目履修方法」について助言が必要な人は、SALCに来て、専門アドバイザーや大学院生サポーターに相談してください。

履修方法

前のページでは、皆さんが目指す英語学習の「目標到達地点」とそのための「学習プラン」を考えてもらいました。それでは、これからの4年間(または6年間)、Q-LEAPでどのような英語科目を履修していけば、目標地点に到達できるでしょうか。

自分の夢や興味・関心、将来の自分像、みんなそれぞれ違うのだから、科目の履修方法も一人一人違っているはずですが、でも、どんな目標を立てたとしても、最低限の単位を取っただけでは、たちどころに英語力はアップしませんし、目標地点に到達できるわけでもありません。大事なことは、「在学中を通して、英語学習を継続すること」です。思い描いた夢に近づけるように、必修の「学術英語1」を修了した後も、自分の目標に合う科目を組み合わせながら、コツコツと積み上げていくことです。これは楽しいことではありません。しかし、在学中に積み上げたこの努力は、絶対にみなさんを裏切ることはありません。

目標別・履修モデルケース



※学術英語2、3、ゼミの科目は、学期によっては開講されない場合があります。

